

### ■米国：MIT 研究グループが天然ガスの将来性に関するレポートを公表

2011年6月25日、マサチューセッツ工科大学（MIT）の研究グループが「The Future of Natural Gas」と題したレポートを発表した。このレポートは米国における天然ガスの将来性を評価したもので、2年間の研究成果だとしている。グループ責任者のモニッツ博士は、「巷で言われるように天然ガスは低炭素社会への橋渡しのエネルギーの役割を担う確証が得られた。」と述べている。米国には現在の消費ペースで92年分もの膨大な量の天然ガスが埋蔵されており、それらの多くが採算性を持つとしている。発電分野では既存のコンバインドサイクル発電所の利用率を上げることにより、二酸化炭素排出量を20%（全産業の8%）程度削減することが可能だとしている。また、再生可能エネルギーの導入が進むにつれ、その出力変動を調整するためガス火力のニーズがより高まると結論付けている。